

GREEN RADER

12



A-Policy【重点事業方針】

生産販売部 果実花き課の取組み 生活部 生活課の取組み

A-Reports

- ・「第46回長野県JA-SSドライブウェイサービスコンテスト」開催…… 05
- ・リンゴ高密度植栽培に向けた農業機械実演会を開催…………… 06
- ・第77回長野県畜産共進会（肉豚の部）
JA松本ハイランドの（有）岩垂原SPF農場が特別優秀賞を受賞…… 07
- ・長野県ジュース用トマト生産振興研修会…………… 08
- ・「長野県きのこの日」JR長野駅前で配布…………… 08

- ・虹の花束コンサート2024開催…………… 09
- ・松本山雅FCホーム最終戦で「きのこたっぷり豚汁」の振る舞い…… 09
- ・今月のおすすめレシピ…………… 10
- ・JA全農長野の事業現況…………… 10
- ・12月のラジオ番組表…………… 10
- ・編集後記…………… 10



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

果実花き課

生産販売部 果実花き課の取組み

果実事業の進捗状況

1. 果実生産販売経過

本県の令和6年度産果実の生産は、春先から大きな天候災害もなく、十分な着果量が見込まれる中でスタートしました。夏場の高温や局地的な大雨など気象変動は激しく病害虫の発生によ

る減収もありましたが、全体では前年を上回る出荷見通しになっています。一方、昨年度の数値減により果実売場の縮小が懸念されたため、本年は十分な数量見通しから事前情報の強化による売場確保対策、店頭での消費宣伝強化に努めています。

2. 果実の重点推進事項

(1) リンゴフェザー苗の安定供給による高密植わい化栽培の普及

主力品種を中心に、地域の特性に応じた振興品種への転換を図り、国の支援事業も活用しながら高密植わい化栽培を推進しています。また、フェザー苗に必要なM9台木の安定生産や、フェザー苗の事前の受注生産体制をさらに整え、令和7年春の定植分としては、県全体で約7万本の供給を予定しています。



フェザー苗の圃場

(2) 集荷対策の実施

例年、気象の影響により、特にリンゴのサビ果や斜形果、着色不良果等の発生が多いため、専用リーフレットや手提げ袋を作成し、下位等級品の優位販売に努めています。また、特に晩生種の時期には、継続的に実施している

集荷対策チラシの配布に加え、ラジオ放送で早めの出荷を呼びかけています。ブドウにおいては、生産量が伸びているシャインマスカットの荷造り省力化対策として、一部で簡易荷造りによる集荷を行い、年末年始需要に向けた房売りや粒パックなど少量規格による

JA長野県グループ リンゴ全力集荷運動

例1 選別・荷造り作業
大急ぎで選別・荷造り作業中！
数々がまとまることで、たくさんの取引先と交渉ができます

例2 発送作業
りんごを箱詰めし、トラックで出荷中！
JA担当者 パイヤー

例3 お申し出対応
お客様からのお申し出に迅速に対応中！
「思ったより商品がない！」「注文したのに届かない！」

JAグループにお任せください!!

荷造りも 出荷、販売も 消費者の皆さんにお届けするまで

全国規模の販売ネットワークを駆使して 消費者のもとへリンゴをお届けします。

最後の1玉まで 残さず出荷を!

集荷用コンテナ 10kgオープンダンボール 5kgオープンダンボール 3kgオープンダンボール

生果向け以外 加工向けへ

※実際の選果・荷づくり風景については、掲載するJAの集荷場をご覧ください。

お近くのJA集荷所・選果場へのお荷にご協力を!

JA全国長野 果実専門委員会 りんご部会

集荷対策のチラシ



販売の仕掛けを行っています。

(3)「ぶどう三姉妹」「りんご三兄弟」のブランド展開

「ぶどう三姉妹」「りんご三兄弟」



りんご三兄弟®の売り場



ぶどう三姉妹®の売り場

のブランドPRとして9月9日(月)、長野県の阿部守一知事、全農長野運営委員会の神農佳人会長が出席し、大果大阪青果(株)においてトップセールスを盛大に開催しました。阿部知事は「消費者の皆様

に長野県果実の美味しさを伝えていただけるとありがたい」とお願いし、神農会長は「ぶどう三姉妹、りんご三兄弟をよろしく願います」とPRし、長谷川県本部長を加えた3名がぶどう三姉妹®と長野県産果実の配布を行い

ました(「本誌10月号」)。また、9月25日からの2週間にわたり全農グループの飲食店「みのもり食堂、みのもりカフェ」銀座三越にてぶどう三姉妹®フェアを開催し、スイーツなどのコラボ企画を展開しました。

花き事業の進捗状況

1. 花き生産販売状況

花の需要は、盆・春・秋彼岸などの物日需要期はもちろん、コロナ禍を経て、通常期も個人・家庭消費が定着したといわれています。一方、国産花きの生産基盤の縮小により市場への入荷量が需要を下回る場面が増えていきます。

今年の生育は、春先のシャクヤクが昨年、一昨年のような春先の低温の被害が小さく順調でした。夏秋品目であるキク、カーネーション、トルコギキョウは高温による短茎開花や病気の発生により数量が減少しました。近年県内で作付けが増加しているアルストロメリアは、シーズンをとお

して昨年を上回る出荷量となっています。販売面では生産コストの上昇を受け、販売単価を上げる交渉とあわせ、生産者がどのように花きを生産しているかなど、美しい花の生産背景を付加価値として伝えられる情報提供資料を作成しました。

また、本会では長野県が生産量日本一を誇るアルストロメリアの、生産振興から優良種苗の確保・供給に注力し



品種選抜圃場から候補を選ぶ

ています。今年度は、新品種の育種・買付のためヨーロッパにある種苗会社を訪問し、需要に基づく花色などの商品性や、品種による生産性、次年度から数年後に導入する品種を見据えた要望などについて、現地の育種家（ブリーダー）と意見交換を行いました。

2. 花きの重点推進事項

(1) 物流課題対策・コスト低減など

アルストロメリアに続き、カーネーションの全県下統一の出荷規格と出荷容器の検討を進めています。出荷規格の統一により、①系統共販の優位性ともいえるロット販売を有利に進めるこ

と、②出荷容器はパレット流通も見据えた上でコスト低減を両立させることの2点を目指しています。

(2) 生産販売提案の取組み強化

アルストロメリアは出荷規格統一の成果として、主要4J Aが合同で実需者への販売を行っています。実需者のユナイテッドベジーズ(株)との取組みは今年で11年目となり、予約相対と年5

回の店頭宣伝会を行っています。全農長野とJA担当者も販売応援に入り、実需者や店頭で消費者から生の声を聴く貴重な機会にもなっています。

3. 消費宣伝事業の展開

5月に近畿大学（Ⅱ本誌7月号）、10月には名古屋ウエディング・フラワー・ビューティー学園（Ⅱ本誌11月号）で花育を実施し、学生が長野県産

花きを使ったブーケやフラワーアレンジメントの制作を体験しました。花育では花の使い方、飾り方、長野県産花きの紹介をおして、家庭消費への波及と花への興味関心の向上を目的としています。今回は初めて大学生と専門学生へ向けた花育となり、若い世代へPRすることができました。

9月5日～6日には花きの消費宣伝・消費拡大と、生産者の技術研鑽を

目的として「第54回信州フラワーショーサマーセレクション」を開催しました。ラジオや新聞、ポスターなどにより事前告知を強化し、例年よりも来場者を増やすことができました。今冬の「ウィンターセレクション」では、花育の開催を調整中です。



カーネーション出荷容器検討会



近畿大学での花育



名古屋ウエディング・フラワー・ビューティー学園での花育

生活課

生活部生活課の取組み

長野県米消費拡大運動 生切り餅の推進について

JA長野県グループでは、令和6年9月に開催したJA長野県農政対策会議において、長野県産もち米（品種：もちひかり）を100%使用した「生切り餅消費拡大運動」に取り組むことを決定しました。

値上げ幅を抑えた設定としました。

この長野県産生切り餅の特長は

①製造先独自製法の「二段杵つき製法」

と「急冷製法」によりコシが強く風味豊かなお餅となっています。

②ひと切れずつ個包装しているため衛生的です（1袋あたり19個〜20個入り）

③お餅に切れ目が入っているため、ふっくら焼けるだけでなく、割ることもできます。

年末・年始の焼き餅、お雑煮、おしる粉などはもちろん、普段のお食事でもお手軽に召しあがっていただけます。

④贈答用にも適した化粧箱（1kg×2袋入）での取組みとなります。

また、生切り餅は賞味期限が長く保存食としても注目されています。

この「生切りもち消費拡大運動」は、県内産もち米の生産量が減少した平成26年度〜28年度では「国内産」もち米による取組みとなりましたが、平成29年度以降は「県内産」で再開し、息の長い運動でご購入の方々からも高い評価をいただいています。

今夏の全国的な米不足の影響もあり、

県内産もち米の確保は今後、生産を含めた情勢に左右されるため、引き続き安定的な需要を確保することが必要です。

さらに、県内産もち米の需要喚起と消費拡大を図り、需給環境にとらわれない安定的な生産者の所得確保につながるよう、JA長野県グループが一体となった取組みが必要です。

ぜひ、皆さまのご協力をお願いいたします。

今年の価格は1,650円（税込）と米価、諸経費（運賃、エネルギー、包材等）の高騰により価格改定となりましたが、

実績は2万1,046箱。

今年の価格は1,

650円（税込）と

米価、諸経費（運賃、

エネルギー、包材等）

の高騰により価格改

定となりましたが、

令和6年

組合員・地域の皆様へ 長野県産水稲もち米100%使用

長野県産 生切り餅

独自の杵つき製法で、丁寧につきあげたコシが強く風味豊かなお餅です。

● 便利な個包装タイプです。
（1袋あたり標準19〜20切れ入り）

● 2分割・4分割にしやすい切れ目入りです。

● 贈答用にもお使いいただけます。

長野県消費拡大運動

JA長野県グループは、良質な長野県産もち米を100%使用した「生切り餅」による長野県消費拡大運動を実施いたします。
長野県消費拡大に対する皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

税込価格

2kg 化粧箱
（1kg×2袋入り）

1,650円

（参考本体価格1,528円）

※写真はイメージです

切り餅のチラシ



「第46回長野県JA-SSドライブウェイサービスコンテスト」開催

長野県農協生活事業推進協議会燃料専門部会は10月9日(水)、JAグリーン長野小島田給油所にて、第46回ドライブウェイサービスコンテストを開催しました。

大会の目的である顧客満足度を高める意識づけとスキルアップ、信頼関係を構築しカーメンテナンス収益の向上を目指し、昨年の8名を上回る13名が日頃培ってきた接客サービスとトークを披露しました。

開会に先立ち、大会委員長でJA全農長野の高木昭彦副本部長より「今年も46回目となる歴史と伝統のある大会を開催することができました。SSが地域の拠点として発展するために、接客技術を向上し、質の高いサービスを提供していく必要があります。消費者の節約意識は高く、販売数量が伸び悩んでいる中、生き残るためにはお客様の信頼を勝ち得なくてはなりません」と挨拶しました。

競技ではフルサービスSSでの迎え入れから送り出しまでの一連の流れを

実践し、ENEOSアプリなどの固定化ツールの提案、ボンネット内の安全点検およびカーメンテナンス商品の提案を行い、日ごろの店頭での接客サービスや知識、技術を競いました。

審査員はENEOS(株)をはじめとする外部担当者が務め、基本の接客として大切な「笑顔」「説明の分かりやすさ」などといった項目を重点的にチェックしてもらい、最優秀賞にはJA大北白馬アルプスSSの上條修一選手が選出されました。

各選手とも日頃の成果を発揮し、素晴らしい笑顔の接客サービスを披露されたレベルの高いコンテストとなりました。今回のコンテストをとおして、更なるサービス向上を図り、お客様の満足度を高め信頼されるSSづくりに取り組んでいきます。



開会挨拶をする高木大会委員長



最優秀賞の上條修一選手

第46回長野県JA-SSドライブウェイサービスコンテスト入賞者

(敬称略)

	JA名	SS名	氏名
最優秀賞	大北	白馬アルプス	上條 修一
優秀賞	グリーン長野	南長野公園前セルフ	松崎 由香理
優良賞	みなみ信州	カーポートあち	仲山 隆樹
優良賞	ながの	アンズロード	柳澤 賢
優良賞	大北	小谷	細田 孔施
ENEOS賞	全農長野	東信事業所生活課	坂内 岳志
トレーディング賞	佐久浅間(株)アメック	駒場給油所	星野 菜緒



出場した13名の選手と関係者

リンゴ高密度植栽培に向けた農業機械実演会を開催

J A全農長野生産振興課は10月22日(火)、伊那市のほ場にて、リンゴ高密度植栽培向けの農業機械実演会を開催しました。イタリアなど海外ではトラクターを利用した牽引式の農業機械が基本であり、トラクター1台で防除・除草・フォークリフトによる運搬までの作業を行います。現在、長野県におけるリンゴ高密度植栽培の面積は約500ヘクタールまでに拡大し、大規模生産者も増加していることから、日本でも省力化に向けた機械化体系の確立が急がれています。本県での導入に向けた足がかりとするため、J A果樹担当者や生産者など約70名が参加し、実演会を行いました。

実演・展示した農機は、トラクター、除草機器、肥料散布機、静電防除機、高所作業車など11メーカーから12機種。参加者はメーカー担当者から説明を聞き、実演を通じて使用性などを確認していました。

生産者からは、「最新の機械を見ることができ、今までの作業時間が大幅に短縮できると確信した」「導入すれば

少人数でも効率的に作業を進めることができると思う。前向きに検討していきたい」との声が寄せられ、導入に対する関心の高さが伺えました。

J A担当者は「これまで海外での使用事例は聞いていたが、今回実際に見ることができて良かった。現場での利用方法が具体的にイメージできた」と話しました。

リンゴ高密度植栽培は垣根状であるため機械化しやすい栽培システムですが、機械の規格や回転半径を加味したほ場の設計など、導入に至るまでには課題もあります。J A全農長野では今後も積極的に省力化の為に機械化体系に取り組んでいきたいと思っています。



生産振興部小林部長あいさつ



デッキ型高所作業車



肥料散布機械（株本への施肥が可能）



静電防除機

第77回長野県畜産共進会（肉豚の部） JA松本ハイランドの（有）岩垂原SPF農場が 特別優秀賞を受賞

JA全農長野は10月23日（水）、松本市の（株）長野県食肉公社で第77回長野県畜産共進会肉豚の部を開催しました。

県内の養豚農家から生後150日以上180日未満の肉豚枝肉14組（雌1頭、去勢1頭）が出品され、松浦昌平審査委員長（県畜産試験場長）をはじめ5名の審査員が、個体ごとの優秀性や組内の相似性などを厳正に審査し、特別優秀賞（Ⅱ県知事賞）にJA松本ハイランドの（有）岩垂原SPF農場を選びました。特別優秀賞の枝肉はモモの張りが良く、脂肪付着も均一で、全体的な体形が揃った優秀な枝肉だと評価しました。

前回から審査基準を変更し、特別優秀賞は「組の部」（雌・去勢一組）として枝肉の重量差がプラスマイナス5kg以内で雌去勢ともに斉一性が高く品質も優秀な枝肉1組、優秀賞は去勢の部と雌の部から個体ごとに審査しそれぞれ3頭を選んでいます。

今夏の豚肉相場は、全国的な頭数不足や輸入豚肉の不安定な入荷状況などの影響から例年になく高値で推移した一方、猛暑による豚の発育遅延も見られました。畜産を取り巻く環境は、飼料原料の国際的な高騰、円安や原油高など様々な情勢が起因して生産コストの高止まりが続いています。また、生産者の高齢化や後継者不足、施設の老朽化、地域での環境対策など、多くの課題を抱えており、豚熱をはじめとする感染症対策の再徹底も重要です。

JAグループでは生産コストの高騰に伴う価格転嫁への理解醸成活動と消費拡大を呼び掛けています。全農長野畜産酪農課は、県内で生産される安全で安心なおいしい信州産肉豚の生産基盤を維持し、農家経営安定とより一層の品質向上、消費拡大に取り組んでいます。



特別優秀賞の褒章授与（畜産酪農部の小林智一郎副部長）

第77回長野県畜産共進会（肉豚の部）入賞者

（敬称略）

賞		JA名	受賞者名
特別優秀賞 （県知事賞）	組の部	松本ハイランド	（有）岩垂原SPF農場
優秀賞	雌の部	佐久浅間	松田武史
		みなみ信州	（農）SPFこがねや第一農場
		松本ハイランド	（有）岩垂原SPF農場
	去勢の部	上伊那	ウエムラファーム
		みなみ信州	（農）SPFこがねや第二農場
		大北	（有）大北アグリサポート 白馬アルプス農場



特別優秀賞の枝肉

長野県ジュース用トマト生産振興研修会

長野県缶詰協会、J A全農長野、全国トマト工業会は11月6日(水)、長野県ジュース用トマト生産振興研修会をまつもと市民芸術館で開催しました。加工メーカー6社が、収量増や省力化につながる優良事例を発表し、全農長野はジュース用トマトの需給状況を説明しました。また、優良農家・法人の表彰も行いました。

長野県はジュース用トマトの全国有数の産地です。令和6年度は、県内12 J Aが計83.5ヘクタール(昨年比86.0%)でジュース用トマトを栽培しました。昨年度同様、高温による日焼け果や台風10号および局所的な豪雨により裂果や着色不良、腐り等のロスが散見され、総収量は4,149トン(昨年比77.6%)、反収5.0トン(昨年比90.2%)でした。

全農長野野菜きのこ課は「今年度も昨年同様に高温の影響で収量および反収が減少し、生産動向は厳しい状況にある。しかし、トマトジュースの販売は伸びており、国産のジュース用トマトの原料は大変貴重で重宝されている」と説明。「引き続き推進活動を行い生産者確保や面積拡大に向けて取り組む。また、県や生産振興部とも連携した栽培動画マニュアルの更新、圃場巡回や会議等の開催をととして反収向上のポイント等も共有していく」と呼びかけました。

優良事例の紹介では、白黒マルチを使用した高温対策、反収上位者の栽培ポイントのまとめ、I P M試験の概要等を共有しました。

優良農家・法人の受賞者は左記のとおりです。

【全国トマト工業会長賞】

農協名	表彰者	反収(kg)
長野ハッ岳	NPO 法人 すみれ会	5,089
佐久浅間	中島 英樹	9,000
信州うえだ	工藤 秀	4,427
上伊那	藤澤 昭二	8,375
みなみ信州	片岡 俊治	6,300
松本ハイランド	百瀬 晃宏	13,040
洗馬	岩垂 聡	8,185
あづみ	務台 康紀	13,784
大北	越山 浩太	3,560
グリーン長野	宮入 一郎	7,833
中野市	(株)ケーアイ・オギワラ	4,311
ながの	(株) Sports Thanx	9,339

全農長野本部長賞(最大面積:生産者)

農協名	表彰推薦者	面積(a)
上伊那	代田 三男	65
あづみ	丸山 貴史	177

長野県缶詰協会会長賞(最大面積:法人)

表彰推薦者	表彰推薦者	面積(a)
あづみ	(有)板花興業	452.4
ながの	(有)柏尾精米	250

「長野県きのこの日」 JR長野駅前配布

全農長野きのこ専門委員会は11月11日(月)、きのこシーズン到来のPRと生産費上昇の理解醸成を目的に、JR長野駅の自由通路できのこを配布しました。11月11日の「長野県きのこの日」にちなみ、えのきたけ、ぶなしめじ、なめこ、エリンギ計1,111個を配りました。レシピ、やきのこスープの素も手渡し、食べ方を提案。きのこの生産コスト上昇についての理解も呼びかけました。

千葉県からツアーで来たという女性は「これから帰るところなのでお土産が増えてうれしい。今日帰ったら早速いただきます」と喜んでいました。同専門委員会の佐々木真委員長は「生産資材コスト、運賃、人件費、すべて上がり経営は楽ではないが、生産者は良いものを作り、おいしく食べてもらいたいとがんばっている」と話し、「今日のきのこの日をきっかけに、ご家庭できのこ鍋を食べていただきたい」と消費に期待しました。



きのこを配布する佐々木委員長



配布したきのこ

虹の花束コンサート2024開催

11月11日(月)にまつもと市民芸術館、20日(水)に長野県民文化会館で虹のホールグループの8JA*主催による「虹の花束コンサート」を開催しました。当コンサートは、大切な人を亡くされたご遺族の皆様、音楽が少しでも心の癒しになることを願い、グリーンサポートの一環として開催。11回目となる今回は、昨年4月から今年3月までにJA葬祭でご葬儀を執り行われたご遺族の皆様を招待し、松本会場489名と長野会場575名、合計1,064名の方にご来場いただきました。

コンサートでは、演奏者の深沢雅美さん(ピアノ)、宮岡由美子さん(フルート)、小山弦太郎さん(サクソフォーン)、横島礼理さん(ヴァイオリン)の4名が、エルガーの「愛の挨拶」などクラシック音楽を中心とした12曲を演奏。来場者からは、「素晴らしい音楽に心が癒されました」「曲が心に沁み、亡き人を思い涙が出ました」「素敵な時間が過ごせました」などのお言葉を数多くいただきました。

閉演後には、来場者に感謝の気持ちを込めてカーネーションをプレゼントし、大変喜んでいただきました。ご協力・ご協賛いただいた関係JA・関係会社の皆様に感謝申しあげ



ます。

*主催8JA

JA長野八ヶ岳、JA信州諏訪(株)あぐりライフ信州諏訪、JA木曽、JA松本ハイランド、JAあつみ、JA大北、JAグリーン長野、JAながの

松本山雅FCホーム最終戦で「きのこたつぷり豚汁」の振る舞い

JA全農長野は、松本山雅FCのホーム最終戦で「きのこたつぷり豚汁」を振る舞いました。10月13日のスポンサーデー「JA全農長野デー」で実施した汁物対決で、一番初めに終了した汁物を最終戦で振る舞う、というイベントを行い、豚汁が一番だったためです。この日は11月11日の「長野県きのこの日」直後でもあり、きのこをたつぷり入れて1,000杯を用意しました。

プレーオフ圏内でホーム最終戦ということもあり、キックオフ3時間前からの振る舞いにもかかわらず、満席のシャトルバスから次々とサポーターが降り立ち、開始直前には焼く100メートルの待機列ができました。試合は2対1でFC琉球を下し、1試合を残してプレーオフ進出が決定しました。



豚汁を受け取るサポーター

JA全農長野の事業現況▶

令和6年度10月末部門別実績表

(単位：百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
生産振興課		4	0	0
野菜種苗センター		115	96	103
生産振興部計		119	99	107
米	穀	11,913	121	123
果実花き		39,148	111	112
野菜きのこ		61,432	97	104
営業		11,017	93	105
生産販売部計		123,510	103	108
包装資材		6,002	102	103
生産資材		5,470	100	105
農業機械		4,066	101	106
施設住宅		3,210	145	57
生産購買部計		18,748	107	92
畜産酪農		18,787	104	100
三岳牧場		177	77	106
SPF繁殖センター		153	83	92
八ヶ岳牧場		188	99	116
畜産酪農部計		19,304	104	101
燃料・ホームエネルギー		14,248	98	100
SS協同経営		4,505	106	100
生活		4,586	101	86
生活部計		23,339	100	97
長野県本部計		185,013	103	104

(内部販売高含む)

12月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
12月25日(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんのずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	販売流通 企画課

グリーンレーダー
X(旧ツイッター)はこちら▶



グリーンレーダー
WEB版はこちら▶



今月のおすすめレシピ



きのこ豚肉の あんかけ丼



■材料(1人分)

- 豚細切れ肉 150g
- なめこ 100g
- えのきたけ 20g
- ぶなしめじ 50g
- 青ネギ お好みで
- サラダ油 適量
- ご飯 1膳
- 水溶き片栗粉 小さじ1

【A】

- だし汁 100cc
- 薄口醤油 大さじ1/2
- みりん 大さじ1/2
- 塩 適量

■作り方

- ①豚細切れ肉に、塩胡椒で下味をつける。えのきたけとぶなしめじは石突を切り、ほぐす。青ネギは小口切りにする。
- ②中火で熱した小鍋にサラダ油をひき、豚細切れ肉を炒める。
- ③②にA、えのきたけ、ぶなしめじ、なめこを加え煮立たせる。
- ④③の火を一度止めたら、水溶き片栗粉を加え再度中火にかけ、とろみがつくまで混ぜながら加熱する。
- ⑤ご飯を器に盛り、④をかけ、青ネギを散らす。

たっぷりのキノコを食べることができるご飯がすすむ1品です。

編集後記

師走になりました。令和6年は新年早々に能登半島地震が発生するという衝撃的なスタートとなり、また8月には南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表され、盆休みの帰省等に大きな影響が出ました。長野県においては高温障害など地球温暖化の影響はあれども、久方ぶりに大規模気象災害に見舞われることなく穏やかで安定した年となり、農産物も堅調な販売推移となりました。

世の中の恐ろしいものを順に並べた表現として「地震・雷・火事・親父」と言われますが、説によれば元々「地震・雷・火事・大山嵐(おおやまじ)」が語源とされているようです。大山嵐とは台風のことであり、近年の気象災害そのものを示唆しているとも受け取れます。

自然災害の発生は止められませんが、備えることはできる。来年も穏やかな気候を願うばかりです。

(一)



ごっつあんです

信州の農畜産物



JA全農長野は、長野県の農畜産物をとおして御嶽海関を応援しています

グリーンリーダー12月号（毎月発行） 2024年11月20日発行
発行／JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 第547号
発行人／長谷川孝治 印刷／PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

